

3577400066		
23 7 11		

・ホームの近くを散歩したり、地域行事への参加、買い物や近隣へのドライブ等、外出支援に力を入れています。  
 ・一人一人のもてる能力を生かし、散歩やお手伝い等をして頂く事で、ADL向上を図っています。  
 ・「手を出さない」「口を出さない」「目を離さない」といった対応を基本に、利用者の出来ない部分への援助を主に行っています。  
 ・地産地消に心掛け、季節の地の野菜を多く使い、三食共職員が手料理しています。また、ご家族面会時に希望があれば、実費で食事を提供しています。月に1度、母体施設の栄養士に検食を提供しています。  
 ・利用者の話をゆっくり傾聴し、思いに共感する事により、利用者が心穏やかに暮らしていけるように、職員全員の統一介護を行っています。

<a href="http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do">http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do</a>		
---	--	--

事業所の畑で収穫した野菜や地域の人から頂いた野菜などを使って、三食とも事業所内で食事づくりをされています。食事の準備や後片付けなど利用者の出来ることは職員と一緒にされ、職員も一緒に食卓を囲んで同じものを食べて、利用者に食事を楽しんでもらえるように支援されています。自宅訪問や墓参り、初詣、りんご狩り、散歩、買い物など利用者の希望にそってや利用者の状態、季節やその時々状況に応じての外出の支援に取り組んでおられます。


1 55						
57	1.			64	1.	
	2.	/			2.	/
	3.	/			3.	/
	4.				4.	
58	1.			65	1.	
	2.				2.	1
	3.				3.	
	4.				4.	
59	1.			66	1.	
	2.	/			2.	
	3.	/			3.	
	4.				4.	
60	1.			67	1.	
	2.	/			2.	/
	3.	/			3.	/
	4.				4.	
61	1.			68	1.	
	2.	/			2.	/
	3.	/			3.	/
	4.				4.	
62	1.			69	1.	
	2.	/			2.	/
	3.	/			3.	/
	4.				4.	
63	1.					
	2.	/				
	3.	/				
	4.					

1	1			「洞察・受容・信頼・共感・平穩」という法人の理念の他、事業所としての理念を職員全員で作成し、スタッフルームに掲示して共有し、日々の実践につなげている。	
2	2			地域の防災運動会や地元保育園との交流スポーツ大会、地域の行事には積極的に参加している。法人主催の祭りで地域の人と交流するほか、ボランティアの受け入れ、散歩や買い物時の挨拶、花を貰うなど、地域の人達との交流を深めている。	
3					
4	3			評価の意義を理解し、全職員が自己評価書に記入し、ミーティング時に検討して、管理者がまとめている。評価に取り組むことでケアの振り返りとし、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	
5	4			定期的開催し、活動報告や、利用者の状況報告、苦情や事故報告を行うとともに、参加者からの質問や要望を聞くなど意見交換を行い、サービスの向上に活かしている。	
6	5			運営推進会議の他、市担当者とは随時電話等で情報交換や相談を行っており、協力関係を築いていくように取り組んでいる。	

7	6			身体拘束に関するマニュアルがあり、勉強会を実施し、全員で身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関に鍵はかかっておらず自由に入出りできる。万が一利用者が無断で外に出ても、長いスロープやその間に椅子を置くなど、行動を察知することができるよう安全面にも配慮している。
8				
9				
10				
11	7			相談、苦情の受付体制、外部機関を明示し、処理手続きを定めている。相談や苦情を表しやすい雰囲気作りに努め、運営推進会議時、面会時等で意見、要望を聞くようにし、運営に反映している。
12	8			職員会議でケアの中での気付きやアイデアを聞く他、管理者は常に職員が意見を言い易いような雰囲気づくりを心がけている。職員から出た意見は代表者に報告し運営に反映させている。夜間1人体制のため不安であるという職員の意見が取り上げられ、法人から夜間2回の巡回が始まるなど職員の意見が反映されている。

13					
14	9			<p>外部研修の情報提供をし、段階的に勤務の一環として研修に参加できるように支援をしている。受講後は復命書の閲覧や口答で報告するなど、全職員で共有している。法人内研修は年2回実施し、事業所独自の勉強会、日々の体験を学びにつなげていくための働きながらのトレーニングもしている。</p>	
15					
16					
17					
18					

19					
20					
21	10			ドライブによる自宅訪問や墓参りなど、本人にとって馴染みの人や場との関係が途切れないよう支援している。事業所周辺の理容院や散歩途中で野菜をもらう近所の農家などが新たな馴染みの場所となっている。	
22					
23					
24	11			日々のかかわりの中での希望や意向はケース記録、連絡ノートに記入し、本人の思いや家族からの情報はセンター方式のシートを活用し、共有して一人ひとりの思いや暮らし方の希望、威光の把握に努めている。	
25					

26					
27	12			把握している本人の思いや家族の意向、関係者からの意見を参考にして、それぞれの意見を反映した介護計画を作成している。ケース担当制をとっており、担当者は責任を持ってチームの意見やアイデアを取り入れるようにしている。	
28					
29					
30					
31	13			協力医療機関がかかりつけ医となっており2週間ごとに受診している。その他の医療機関(精神科、耳鼻科)は家族が同行して受診するなど、適切な医療が受けられるよう支援している。	
32					

33					
34	14			<p>重度化、終末期に向けたほうしんについては利用時に家族に説明し同意を得ている。実際に重度化した場合は、本人、家族や主治医等と話し合い他施設(特養等)への移設も含め支援している。</p>	
35	15			<p>マニュアルがあり、事故・ヒヤリはつと報告書を作成し、原因と対応策について話し合い、一人ひとりの事故防止に努めている。応急手当や初期対応の定期的な訓練は実施していない。</p>	<p>・応急手当等の定期的訓練の実施の検討</p>
36	16			<p>風水害訓練を年1回実施し、火災訓練においては、通報訓練を年2回、夜間を想定した避難訓練実を年1回実施している。法人内には夜間2名の宿直員が夜警をしており、消防署も近く、地域との協力についても運営推進会議を通して協力体制が築けるよう努めている。</p>	
37	17			<p>入浴や排泄等に関する声かけや対応には、利用者の誇りを傷つけたり、プライバシーを損ねることのないような支援に取り組んでいる。損ねる対応に気づいた時などは管理者が指導したり、職員同士で注意しあっている。</p>	
38					

39					
40					
41	18			職員全員が交代で食事担当となり、3食の献立、調理を行い、職員も一緒に食卓についての食事を楽しんでいる。野菜のほとんどは利用者が畑で作ったものや地域の人から貰ったものを利用し、利用者は食事を楽しみにしている。食事の準備や後片付けなど、利用者の出来ることは一緒にしている。	
42					
43					
44	19			排泄チェック表に排泄状況を記録し、習慣やパターンを把握して、トイレでの排泄や自立に向けた支援に取り組んでいる。	



45					
46	20			基本的には月水金の午後の入浴となっているが、希望があれば午前中でも入浴できる。一人ひとりの意向を大切にしてお互いに応じた入浴支援をしている。シャワー浴、清拭、足浴の対応もしている。	
47					
48					
49	21			草取り、野菜作り、野菜の収穫、雑巾縫い、ゴミ袋の名前書き、洗濯物たたみ、歌、ぬり絵など一人ひとりの生活歴や力を活かした場面作りや、ウッドデッキでのソーメン流しや日光浴など、季節に応じた楽しみごとや気分転換等の支援をしている。	
50	22			日常的な周辺の散歩、買い物、初詣での三社詣りやリンゴ狩り、花見、ドライブで公園等に出かけたり、個人の希望にそっての個別外出の支援もしている。	

51					
52					
53	23			<p>共用の生活空間は広く、明るく、清潔感があり、ホールはそれぞれが好きなことができるようソファや机が備えつけられており、ゆったりとした穏やかな空間づくりができています。居間から広がる大きなガラス窓からは常に四季の変化を室内からも感じ取ることができ、居心地良く過ごせるようになっている。</p>	
54					
55	24			<p>使い慣れた物小タンスやソファ、椅子、テレビ等が持ち込まれ、家族の写真やお気に入りの帽子を飾るなど、本人が居心地良く過ごせるよう工夫している。また、転倒予防に配慮した床一面のクッションやベッドの高さを調整した居室もあり安全も配慮している、</p>	
56					

1	35			2	3
2					
3					
4					
5					

1  
2